

APAホテル日本橋駅前&赤坂見附

ビル設備に新しい風 — 銅配管と機械式継手

シティホテルの利便性、旅館の「おもてなし」をビジネスホテルの料金で届けることをコンセプトに都市型ホテルを全国主要都市に展開するAPAグループ。二五年春、同社が新規オープンする二つのホテルの給水・給湯用配管に銅管が使用されている。

両物件では給水・給湯用に「A〜H」Aの銅管が使用され、接合には、最近普及をみせているカンメ式の機械式継手が採用されている。設備業者である(株)朝日工業社・松田博主任にお話を伺った。

「設計当初、給水用にVLRP、給湯用にHTLRPを使用する予定でしたが、衛生性、トータル的な経済性などを考慮し、銅管を使用することになりました。ホテルということもあり、とくにレジオネフ菌対策としても銅のもつ抗菌性は非常に魅力的でした。腐食の心配も多少ありましたが、最近普及の屋上設置タイプのマルチ給湯器だったのでその心配もなく、銅管採用に踏み切りました。コストの問題は、銅管を階高に合わせてフレカットし、フレカット加工することで対応しました。現場でのロスを少なくし、できるだけコストダウンするよう努めました」

また、施工性においても銅管にはメリットが多い。

「今回の物件はシティホテルということで、狭いスペースで縦横に配管をしなければなりません。狭いスペースで極力火を使わないでできる工法を求めていたところ、銅管の機械式継手が適していることがわかりました」

採用されたプレス式継手は専用の工具を使い、わずか

(株)朝日工業社・松田博主任



数秒のプレスで銅管と継手を二重かきめすることで強度の高い接合部を得ることができ、プレス工具1台で四インチまでの全ての銅管の接合ができることも特長のひとつだ。

「銅管と機械式継手の組み合わせは、軽く、簡単にスナプスに施工することができました。分岐部分も、チーズを使うことで火を使わずに施工できるのがいいですね」

機械式継手は、欧米ですでに十年以上使用され、高い評価を得ている。とくに銅管はやわらかく、抜けないため、機械式継手と相性のよい素材といわれている。

また近年では、これまでの「造って壊す」建築がもたらす環境負荷が大きな問題となっており、これを減らす方法としてリノベーションやコンバージョンと呼ばれる既存の建物の用途転換による再利用の動きが盛んになっている。これに伴いビル構造や設備などの改修工事は増加しており、狭いスペースで、火を使わずに施工できる銅管と機械式継手の需要はさらに高まっている。

利便性・快適性・低価格といついつかの異なる価値を併せ持つAPAホテル。その革新的なコンセプトに銅管と機械式継手はぴったりとマッチした。経済性、衛生性に加え、施工性を向上した銅管と機械式継手の組み合わせは、時代のニーズとともに、今後ますます活躍の場を広げていくことだろう。



APAホテル日本橋駅前



かしめの様子



機械式継手



APAホテル赤坂見附の銅配管

